

先進RF自己防御シミュレーションの研究

○武田 仁己*1、伊藤 伸浩*1

1. 研究の目的

近い将来、周辺国においてステルス機が配備されること及び各種ミサイルの性能向上等に対処するため、将来の戦闘機に搭載するセンサ・システムのうち、脅威となる戦闘機等に対して自己の残存性を高めるためのRFセンサによる自己防御システムについて性能等検討のためのシミュレーションに関して技術資料を得る(図1に運用構想図を示す。)

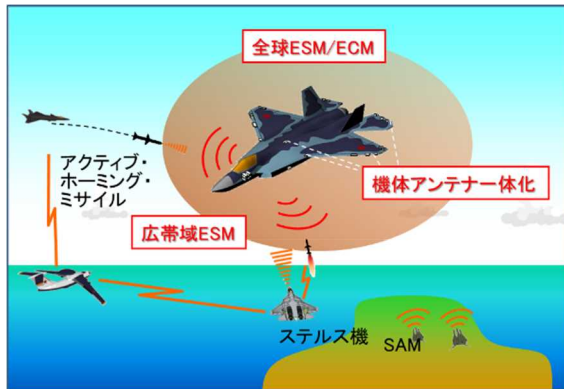


図1 運用構想図

3. 経緯

将来、高脅威化する航空機、空対空ミサイル、地対空ミサイル等から自機を守るため、これらが発する電波を瞬時に、かつ全球で警戒及び妨害可能な既存の自己防御システムは我が国に存在しないため、独自で研究開発する必要がある。

本研究試作(その1)及び(その2)において、先進RF自己防御システムのシステム設計、ESMアンテナ(図3)、解析評価装置、地上試験用ESM装置及びシミュレーションプログラムの設計、製造し、性能確認試験を段階的に行うことで、技術課題を効率的に解明する。

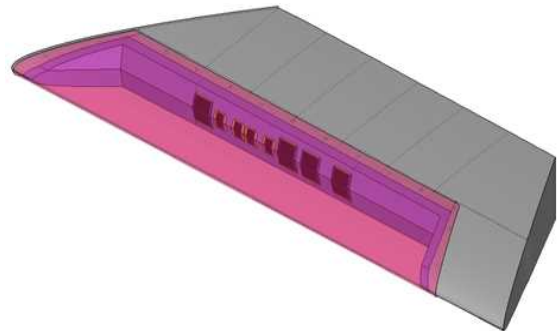


図3 ESMアンテナ

2. 線表

年度	25	26	27	28	29	30
		研究試作				
				技術試験		

図2 研究線表

*1 装備開発官(航空装備担当)付第6開発室